

自然素材のプライベートブランド

Skog
スコグ

エーゼットウォール
AZ wall®

内装用

施工説明書

※注意

必ず施工者・現場責任者に手渡し、
下地施工前に内容をご確認ください

※施工するに当たって必ずお読みください。

- 1、施工前に必ず本施工要領(施工説明書)を読み、施工手順・諸注意事項等の確認をお願い致します。施工要領書(施工説明書)以外の施工方法、手順で施工した場合、製品の性能が保たれず不具合を生じることがあります。
- 2、主原料のゼオライトは天然鉱石の為、生産ロットにより多少の色違いが発生します。自然素材による特有の現象ですので予めご了承ください。施工面ごとに1つの入れ物にて練り上げることによって、色違いを軽減できます。
- 3、本製品を施工の際は、練り上げは必ず5分以上かく拌をお願い致します。(詳細はP 10仕上げ材の施工をお読みください。)
- 4、施工の際と施工後は、建具の一本引き・アウトセットなどの障子は外しておいてください。障子を引き込んでおくと、障子裏の塗り壁が乾燥せず、カビ等を発生させることがあります。
- 5、梅雨時期などは、現場にて除湿機や扇風機の運転を推奨いたします。(乾燥が遅くなるとカビの原因となります)
- 6、記載内容以外の件に関しては、必ず弊社までお問い合わせください。
- 7、本製品は自然素材からできた材料の為、また現場での左官職人による手仕上げの工事の為、完全にコテむらを消すことはできません。
- 8、本製品は、金ゴテで強く押さえたり、こすり過ぎは厳禁になります。塗り付けながら仕上げていくようにしてください。
- 9、塗り壁施工後、初期段階で構造クラックが入る場合があります。構造クラックの為、すぐ補修しても、建物全体の含水率などが影響し再度発生する場合がございます。仮に補修をされる場合は、施工から2年程度と建物状況が落ち着いてから依頼されることをお勧め致します。

目 次

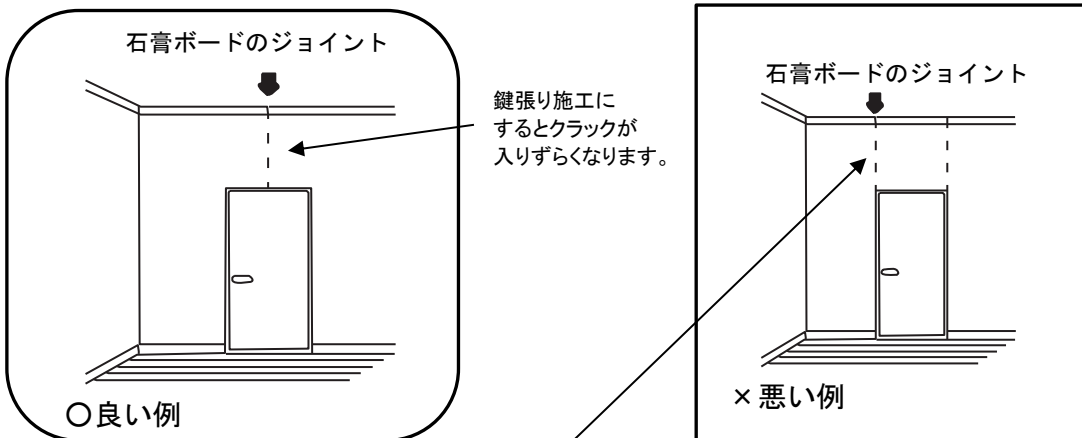
| | | |
|---------------------|-------|---------|
| 1. 下地のチェックと確認 | ----- | 3 P |
| 2. 施工手順 | ----- | 4 P |
| 3. 石こうボード下地の場合 | ----- | 5 P |
| 3-1 パテ材の施工 | ----- | 5 P |
| 3-2 出隅・入隅の処理方法 | ----- | 5 P |
| 4. クロス下地の場合 | ----- | 6 P |
| 4-1 クロスの上に施工 | ----- | 6 P |
| 4-2 クロスを剥がして施工 | ----- | 7 P |
| 5. 石こう中塗り下地の場合 | ----- | 8 P |
| 6. モルタル・コンクリートの場合 | ----- | 8 P |
| 7. 特殊下地のご注意 | ----- | 9 P |
| 7-1 合板（ベニヤ）下地の場合 | ----- | 9 P |
| 7-2 ペンキ・塗装下地の場合 | ----- | 9 P |
| 7-3 聚楽・砂壁・繊維壁 下地の場合 | ----- | 9 P |
| 8. 仕上材の施工 | ----- | 10 P |
| 8-1 仕上材の施工 | ----- | 10・11 P |
| 8-2 仕上材の乾燥 | ----- | 11 P |
| 8-3 その他の注意事項 | ----- | 11 P |
| 9. 維持・補修の方法 | | 11 P |

1. 下地のチェックと確認

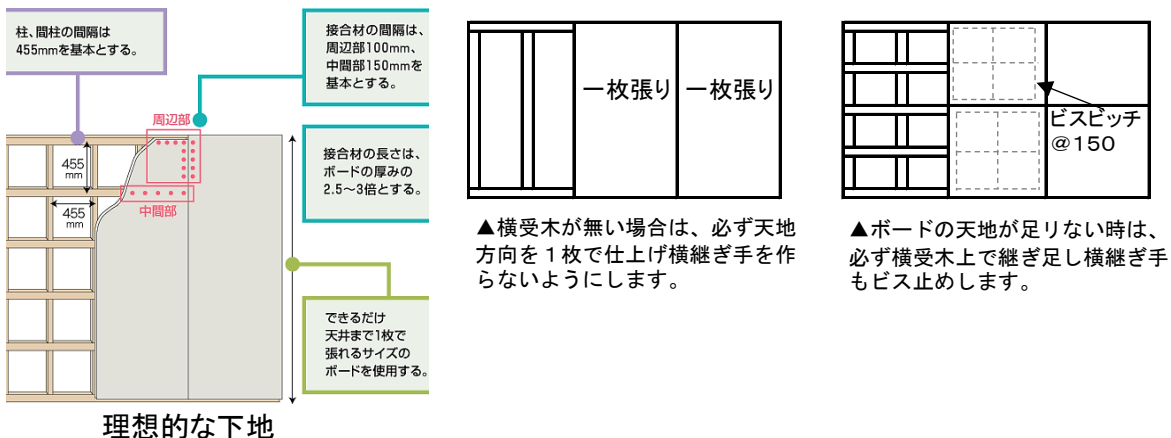
＜石膏ボード下地の場合＞

石膏ボード（12.5mm厚以上を使用して下さい。）

- ・石膏ボードは隙間のないように、且つ段差のないように張り込んで下さい。
- ・石膏ボードの施工には、ビスを使用して下さい。
- ・廻り縁（見切り）や巾木の施工を標準として下さい。
- ・石膏ボードは受け木の上で継ぎ足し、@150ピッチでビス止めをして下さい。ドアや窓枠の隅の周辺に石膏ボードの継ぎ目を作らないよう、事前に大工さんとお打ち合わせ下さい。
- ・石膏ボードのベベルエッジの小口に木工用ボンドを塗って貼り合わせると、かなりひび割れの抑止効果があります。
- ・3×8ボードを推奨します。横目地が少ないのでクラック防止になります。



ジョイント部を開口部の延長線上に作るとクラックが発生し易くなります。
吹抜けなどはボード横の継ぎ目にクラックが入りやすい為、必ず施主様に予めご説明をお願い致します。
石膏ボードのジョイント部には、見切りなどを廻すとクラック防止に効果的です。



▲横受木が無い場合は、必ず天地方向を1枚で仕上げ横継ぎ手を作らないようにします。

▲ボードの天地が足りない時は、必ず横受木上で継ぎ足し横継ぎ手もビス止めします。

※製品は湿式の材料です。下地の組み方不良や下地のあばれなどによって、ジョイント部分にひび割れが発生します。施工後のトラブル防止のため、下地の状態に不安がある場合は必ず、設計の方や大工さんと打ち合わせいただき、不良箇所などは手直した上で施工して下さい。

※GLボンド工法下地、ハイクリンボード下地には施工できません。

※塗り壁を仕上げる同一面に違う下地材（合板など）を用いるのは、おやめください。ひび割れの原因になります。

2. 施工手順



施工者の方へ

AZ wall は自然素材で構成されています。材料を練る際の水量、練り方や練り時間によって材料の性質が大きく変わります。この点にご注意頂いて施工することが AZ wall の仕上げを成功させるポイントです。

ポイント1：基準水量

基準水量を必ず守って下さい。水量を変えると糊剤の効果が悪くなる等の問題が起こります。

ポイント2：材料の練り方

バケツに1袋分の材料を入れ、水を基準量の7割程入れ、適度に混ぜ合わせます。その後、残りの水を少しずつ加え攪拌機で **5分以上** 攪拌して下さい。

ポイント3：材料の練り時間

練り時間が短いと、材料の流動性が悪くなるなど作業性が悪くなり仕上がりにも影響が出ます。必ず **5分以上** 練って下さい。

ポイント4：施工中の空調、換気

施工中は過度に乾燥が早いと、材料の乾きが早くなって仕上げにくくなります。施工中は冷暖房の風などが直接あたらないよう、注意して作業していただくのがきれいに仕上げるコツです。

ポイント5：施工後の十分な換気

施工後は十分に乾燥の促進を行って下さい。乾燥が遅れるとカビが発生する恐れがあります。湿気がこもらないように、十分に換気を取り（窓を開ける、換気扇、エアコン、扇風機の運転、除湿機）、完全乾燥をお願いします。ただし、施工面には連続して直接風が当たらないようにしてください。

適応下地 3. 4. 5. 6

3. 石こうボード下地の場合

3-1. パテ材の施工

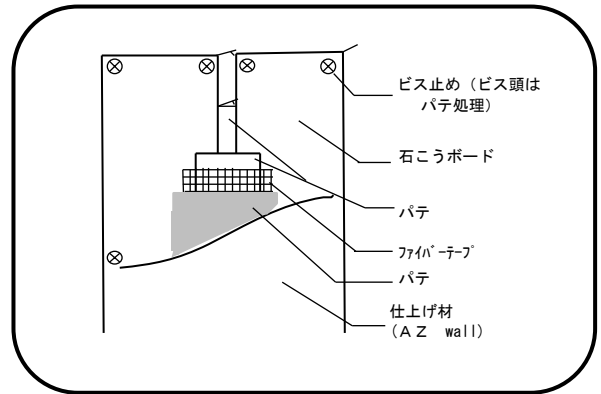
(1) 事前に準備していただきたいもの

- ①小バケツ（10リットル以上） 1個
- ②攪拌機 大1台
- ③練り水（水道水または、これに準じる水を使用して下さい）
- ④施工道具（金ペラ、金ゴテ、木ゴテ、ブラシなど）
- ⑤グラスファイバーテープ
- ⑥乾燥パテ（速乾性のパテは不可）

【※】速乾性パテを使用した場合、速乾性パテに含まれる成分がAZwallと反応し色むらになる場合がございます。特に、色のついたカラーの場合目立ちやすくなる可能性があります。ご了承ください。

(2) パテの施工方法

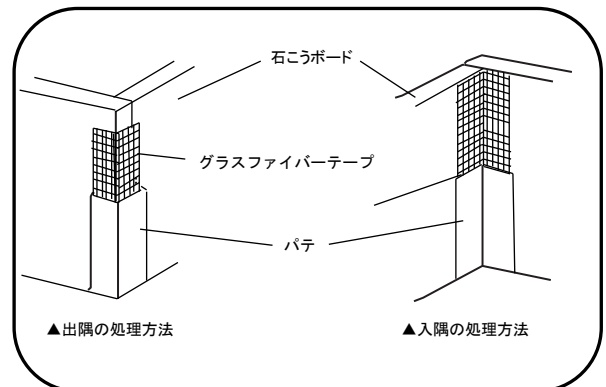
- ①石こうボードのジョイント部分およびビス頭にヘラ、又はコテで押し込むように塗り付けて下さい。
- ②乾燥させます。
- ③ジョイント部分にグラスファイバーテープを貼り付けて下さい。
- ④グラスファイバーテープを覆い隠すように、パテを20cmくらいの幅に塗り、平滑に仕上げして下さい。
- ⑤乾燥後、ヤセた所は再度パテを塗り、平滑に仕上げして下さい。
- ⑥完全乾燥させます。



※仕上げパターンによりパテ処理部分の段差が見える場合がありますので、ご注意ください。

3-2. 入隅・出隅のパテの施工方法

- ①入隅、出隅にグラスファイバーテープを貼り付けて下さい。
- ②パテでグラスファイバーテープを覆い隠すように幅広にしごき塗りして下さい。



※パテは、必ず完全乾燥させて下さい。不完全な乾燥は仕上材の色ムラ等につながります。

※パテ乾燥後ペーパーがけは行わないで下さい。

4. クロス下地の場合

<クロス下地の場合>

貼ってあるクロスの材質、クロスの下地によって施工方法が変わります。

○クロスがビニルクロスで石こうボード上に施工してある場合



クロスを剥がさずに施工できます。(クロスの上に施工)

×紙クロス、布クロスの場合、クロス下地がモルタル、コンクリートの場合



クロスを剥がして施工して下さい。

4-1. クロスの上に施工

(1) 下地処理 (クロスの上から施工する場合)

- ①ビニルクロス上のゴミ、汚れを除去して下さい。
- ②クロスが剥がれていたり浮いている時はその部分を切り取り、剥がして下さい。
- ③クロスを剥がした部分に残っている裏紙は、霧吹きで水を与えスクレーパー等できれいに剥がして下さい。
- ④経年の剥がれ防止の為、クロスの上から20～30cm間隔でタッカーで止めて下さい。特にクロスを剥がした周辺部、クロスの継ぎ目などは剥がれやすいので、15cm以下の間隔でタッカーで止めて下さい。
- ⑤クロスを剥がした後に凹凸や傷がある時は、ファイバーテープを施工しパテで下地を平滑にして、乾燥後に次の工程へと進んで下さい。

(2) シーラー処理

カチオン系やアク止め入りのシーラーをローラーやハケでムラ無く塗り付け、完全乾燥させて下さい。

※注意点

- ・クロスの模様が深い場合は、凹凸が出てしまうことがありますので、仕上材をしごき塗りして凹凸を取り平らにし、乾燥後に仕上げ塗りを行って下さい。
- ・貼られているクロスが紙クロス、布クロスの場合は必ず全面剥がして下さい。
- ・クロスの汚れによるシミ、アクの発生、剥離の危険性があります。
- ・クロスの剥がれがひどいときはクロスを全て剥がして下さい。
- ・クロスや石こうボードが濡れている時は、ボード等からの下地の交換が必要です。
- ・クロス表面の凹みが深い場合、仕上材をしっかりと塗り込んで下さい。
- ・ビニルクロスの下地への接着が不十分な場合、仕上材の乾燥収縮によりクロスが引っ張られ部分的に剥がれることがあります。
- ・カビ等がある場合は、ボードを交換してください。

4-2. クロスを剥がして施工

紙クロス、布クロスの場合、クロス下地がモルタル、コンクリートの場合

(1) 下地処理（クロスを剥がして施工する場合）

- ① クロスをきれいに剥がして下さい。
 - ② 表紙が残っている場合は、ローラーやハケ、霧吹きで水をしみ込ませてスクレーパー等できれいに剥がして下さい。
 - ③ クロスを剥がした後に凹凸や傷がある時は、ファイバーテープを貼りパテで下地を平滑にして、乾燥後に次の工程へと進んで下さい。
- ※裏紙が残っていると、その部分が膨れる事があります。

(2) シーラー処理

シーラーをローラーやハケでムラ無く塗り付け、完全乾燥させて下さい。

※注意点

下地の汚れによるシミ、アクの発生、剥離の危険性があります。
(シミ、アクの発生の恐れがある場合はハイポリックシーラー(※注)をローラーやハケでムラ無く塗り付け、完全乾燥させて下さい)

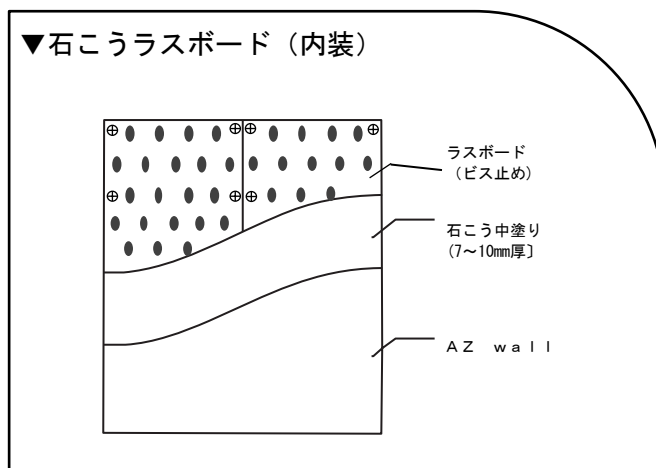
(※注)

推奨シーラー（下記シーラーはF☆☆☆☆表示製品です）

(株)ハネダ化学 ハイポリックシーラー

5. 石こう中塗り下地の場合

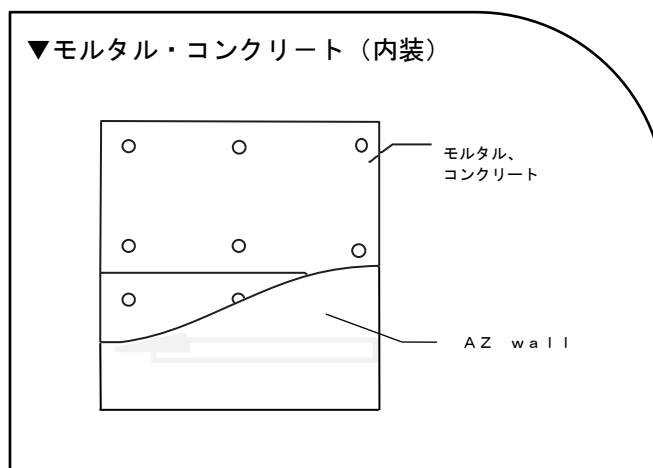
特別な下地処理は必要ありません。
石こう中塗りを下地とする場合、乾燥が不十分ですと、仕上材の乾燥が遅れ、カビの発生の原因になることがあります。下地を十分に乾燥させてから仕上げを行って下さい。



ただし、吸水の激しい中塗り材への塗り付け、夏季の大面の塗り付け、仕上材の水持ちが悪く仕上げに支障がある場合は、塗り付け前にシーラー（※注 参照）の4倍液を全面塗布、乾燥させて下さい。

6. モルタル・コンクリートの場合

乾燥が十分（含水率10%以下）な下地であれば特別な下地処理は必要ありません。
ただし、モルタル、コンクリートを下地とする場合、乾燥が不十分ですと、仕上材の乾燥の遅れによるカビの発生や、表面強度、付着力の低下が occurs。
pH試験紙でpH9以下、水分計で含水率10%以下になったのを確認の上、施工して下さい。
（乾燥の目安はコンクリート28日以上、モルタル21日以上）



ただし、夏季の大面の塗り付け等、仕上材の水持ちが悪く仕上げに支障がある時は、塗り付け前にシーラー（※注 参照）の4倍液を全面塗布、乾燥させて下さい。

（※注）

シーラーは、夏季の急激な水引きによるドライアウトの予防、大壁を施工する上で仕上げ時間の延長など水引きを調整するために使用致しますが、アレルギー並びに化学物質過敏症の方はシーラーが原因で気分が悪くなることがあります。作業性第一ではなく、お施主様にシーラーを使用することをご確認頂いてから使用を決定して下さい。

シーラー（モルタル接着増強剤）

昭和電工建材(株)
日本化成(株)

ハイモルエマルジョン
NSハイフレックス

を推奨致します。

※3～6以外の下地をご使用になると、色ムラ、クラックを生じる危険性がありますのでご注意下さい。
また、御不明な点がございましたら事前に弊社までお問い合わせ下さい。

7. 特殊下地の場合 ～(株)キムラ非推奨～

※重要注意点

以下に記載します特殊下地の場合は、製品の仕上がりに問題が起こる恐れがあります。

施工される場合は、お客様ご自身でご判断いただきます様
お願い致します。

- ・ 適応下地と比べ、割れやハクリ、アクの発生の危険性が高まります。
- ・ 通常の施工と違い、ブク（気泡）が出る危険性があります。
- ・ 製品の性能を低下させる恐れがあります。

7-1. 合板（ベニヤ）下地の施工方法

＜注意点＞

合板（ベニヤ）下地は施工後の膨張、収縮が大きく、適応下地に比べ割れが発生し易くなります。
部分使用（設備機器の受け板等）でも割れやアクの発生が予想されます。

7-2. ペンキ・塗装下地の施工方法

＜注意点＞

塗装下地の場合は、塗料が下地から剥がれてくる場合があります。
（ガムテープを貼って剥がしてみても、塗料が剥がれてこないかどうか確認し施工する方法もありますが、確実な方法ではありません。）

7-3. 聚楽・砂壁・繊維壁下地の場合

＜注意点＞

聚楽、砂壁、繊維壁下地の場合は、剥離の危険性があります。

※樹脂聚楽などの場合、壁を剥がさなくても施工できる場合もありますが、強度を十分に
確かめてから施工して下さい。

※GLボンド工法下地、ハイクリンボード下地には施工できません。

8. 仕上材の施工

8-1. 仕上材の施工

(1) 事前に準備していただきたいもの

- ①プラスチックバケツ（20リットル以上の物） 1個
- ②攪拌機（かくはんき） 大1台
- ③練り水（水道水または、これに準じる水を使用して下さい）
- ④塗り付け、模様付け道具、適宜（金ゴテ、本ゴテ、ハケ、ヘラなど）

※基準水量（季節や現場条件によって水量は異なります）

| | 名 称 | 重 量 | 水 量 |
|-----|--------------------|--------|------|
| 仕上材 | A Z w a l l | 1袋10kg | 9ℓ前後 |
| | AZ wall ShellWhite | 1袋10kg | 8ℓ前後 |

☆初めて施工される方へ

< 注 意 点 >

バケツに水を入れる際、全部入れるのではなく、**7割程**入れて攪拌機で約1～2分よく混練をします。

その際、材料の吸水量が激しいために硬く感じる場合もありますが、加水せずそのまま練って下さい。
1～2分で柔らかくなりますので、残りの水を少しずつ加えて練って下さい。

それでも硬い場合は、加水をして調整して下さい。（季節や現場によって水量は異なります。）

(2) 仕上材の練り方：ベース色 の場合

- ①バケツに1袋分の材料を入れます。
- ②水を基準量の7割程加え、2分程混ぜ合わせます。
その後、残りの水を少しずつ加え、攪拌機で**5分以上**よく混練し、均一なペースト状にして下さい。
- ③練り置きはしなくて結構です。すぐに塗り始めて下さい。
- ④施工中に材料が締まってきたら、加水しないで攪拌機で練り直して下さい。
- ⑤塗り厚は、2mmが基本厚みです。厚塗りは、クラックの原因となります。

※水量の調整は±0.5ℓで行い、最初に決定した水量を施工途中で変更しないで下さい。
水量の変更は色ムラや質感の違いの原因になります。

※混練した材料は当日中に使用して下さい。
止むを得ず翌日の使用になる場合は密閉して保管して下さい。（使用前には必ず練り直して下さい。）
必ず冷暗所に保管して下さい。
気温の高い時期は、水練りしたまま長時間放置すると変質することがあります。
夏季は水練りした材料を当日中に使い切るようにして下さい。

(3) 仕上材と色粉の混ぜ方：ベース色以外（AZ-1～AZ-6）の場合

注意してください！

| | |
|--------|------------------------------|
| AZ-1 | 本体1袋に対し、3袋入れてください。 |
| AZ-2～5 | 本体1袋に対し、1袋入れてください。 |
| AZ-6 | 本体1袋に対し、1%は2袋、5%は10袋入れてください。 |

※天然鉱石を使用している為、若干の色違いが出る場合があります。必ず色を合わせて下さい。

- ①色粉の品番の確認をします。
- ②バケツに1袋分の材料を入れます。
- ③水を基準量の7割程加え、2分程混ぜ合わせます。
- ④色粉を全てバケツに入れ、30秒～1分程攪拌します。（こぼさない様をお願い致します。）
- ⑤残りの水を少しずつ加え、攪拌機で5分以上よく混練し、均一なペースト状にして下さい。
- ⑥練り置きはしなくて結構です。すぐに塗り始めて下さい。
- ⑦施工中に材料が締まってきたら、加水しないで攪拌機で練り直して下さい。
- ⑧塗り厚は、2mmが基本厚みです。厚塗りは、クラックの原因となります。

8-2. 仕上材の乾燥

- ・湿気がこもらない様、十分に換気を取り（窓を開ける、換気扇、エアコン、扇風機の運転、除湿機等）速やかに仕上材と下地材までを乾燥させて下さい。
- ・施工後、乾燥が遅くなりますとカビが発生する恐れがあります。

※万が一、カビが発生した場合は以下の手順に従って処理して下さい。

カビが発生した場合は…

- ①ドライヤーなどでカビの発生した部分を乾燥させて下さい。
- ②ハケなどでカビを払い落としながら掃除機で吸い取って下さい。
- ③消毒用エタノールを霧吹きでたっぷり吹きかけて下さい。
- ④完全乾燥させて下さい。

- ・凍結の恐れがある場合は、室内を5℃以上に管理して下さい。（夜間含む）

8-3. その他の注意事項

※施工可能面積は、フラットパターンで仕上げで一袋でおよそ10㎡(2mm厚)となります。

※パターンにより色は必ずしも均一には仕上がりにません。

※混合物を入れる場合は、石油化学製品、アルカリ系製品または原料は避けてください。

9. 維持・補修の方法

- ・壁の掃除は、はたき等でホコリを払って行って下さい。
直接壁を擦るような方法、あるいは壁を濡らすような掃除方法は避けて下さい。
- ・傷などの補修は以下の方法で行って下さい。

- ①傷付き、もろくなった部分をハケ等で払って落とします。
 - ②傷の周りに霧吹きで水をかけます。（材料が湿って柔らかくなる程度）
 - ③補修に使う材料を用意し、コテ、ハケ等で傷に詰めます。
（小さな傷の場合は必要ありません）
 - ④コテ、ハケ等で傷の周りの材料と良く馴染ませて下さい。
 - ⑤完全乾燥させて下さい。
- ※濃色系の部分補修の場合は色ムラが目立つ事がありますのでご注意下さい。



vol. 6 2020年4月

〒060-8576 札幌市東区北6条東4丁目1番地7 デ・アウネさっぽろ6F
TEL(011)721-4311 FAX(011)742-4714
www.kimuranet.jp